

知的障害のきょうだい児が抱える問題について
岸本 真理子 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)
指導教員 金田 安正

キーワード：きょうだい 知的障害 心理的負担

1. はじめに

大学に入学してから障害者スポーツ大会にボランティアとして参加したことをきっかけに、障害児・者について感心を持ちはじめ、学びはじめた。筆者には親戚に 28 歳のダウン症の女性がいることから、障害児・者とそのきょうだいとかかわる機会も増えた。

本研究では、きょうだい児が抱える問題を明らかにし、実際にきょうだいにどのような影響を与えているのかを検討した。

2. 研究方法

文献によりきょうだい児が抱える問題についてまとめ、ダウン症の妹を持つ女性(30歳)とダウン症の姉を持つ男性(22歳)にインタビューを行った。さらに、文献とインタビューをもとに、重症児・者と知的障害児・者との比較を行った。

3. 結果と考察

きょうだい児の問題は 6 つに大別できる。

- ①家族の存在：インタビューでは影響が強いことが知られ、家族の接し方がきょうだい児の負担や性格を左右する原因となっている。文献では、親が重症児・者につきっきりになっていることから、きょうだいに孤独感が生まれている。
- ②きょうだいの性別と順序：男性は障害児・者に少しの抵抗を示し、女性は抵抗を示さなかった。そして、年上のきょうだいでは障害児・者の面倒を見る傾向にあり、年下のきょうだいは親が障害児・者につきっきりになってしまうことから孤独感を抱いている。

③障害の種類と程度：知的障害の中でも障害の種類と程度で負担の大きさは異なり、また重症児のきょうだいは心理的負担よりも社会性や情緒の発達の遅れが問題となっている。

④親の期待：障害児・者に期待できない分、きょうだいに対する期待は大きいため、きょうだいはしっかりしなければならないという圧力が大きな負担になる。

⑤結婚：障害児・者の存在が影響し、結婚相手には障害児・者のことをしっかりと理解してくれる人を選ぶようになる。

⑥親亡き後：親からのプレッシャーはないものの、今後も施設に入れるようなことはせず、自分たちで面倒を見ていくという。しかし、きょうだいは問題を抱えるだけでなく、障害児・者の存在を通して貴重な体験ができていると感謝している。

4. まとめ

本研究では、まず文献から障害児・者のきょうだい児が抱える問題を調べた。インタビューで、ダウン症児のきょうだいは筆者が思っていたよりも心理的負担が少ないということが示された。これは、ダウン症児の明るい性格や、親が障害の有無にかかわらず同等に対応してきたことが大きく関係しているということがわかる。また、障害の種類と程度も大きく関係しており、知的障害の中でも問題行動を起こすようであれば負担は大きくなり、問題行動を起こさなければ負担は少なくなる。きょうだい児が抱える問題はそれぞれの環境で異なり、さまざまな感じ方があるといえる。

